

創意工夫

高付加価値部品のトップブランドを目指して

石金精機における
経済環境の変化への対策
～省エネ編～



代表取締役
清水 克洋

カーボンニュートラルや SDGsと企業経営

ここ最近、お客様からカーボンニュートラルやSDGsへの取り組み状況に関する調査やヒアリングの機会が増加しており、企業として対応が求められていることを実感しています。

カーボンニュートラルでは主に温室効果ガスの削減がキーワードとなっており、一企業として、二酸化炭素の排出量削減が主たる取り組みとして求められています。SDGsでは、持続可能な開発につながる17個の目標が設定されており、各企業が取り組むことが求められています。

カーボンニュートラル、SDGsの双方に関連しており、当社でできる取り組みとして、省エネ対策が最上位にあると思います。当社が省エネ対策に取り組む意図としては、もちろんカーボンニュートラルやSDGs関連施策の要素も含んでいます。が、昨今の経済状況を踏まえた経営戦略の要素が大きく、企業として方針や方向性を決め、実行することが必要だと思います。

この省エネ対策のように、カーボンニュートラルやSDGsに関わる取り組みの成果は、経営の収益性や安定性の基盤構築につながると考えております。単なる環境配慮や世界的な政策を意識した取り組みとしてだけではなく、経営戦略として取り組むことで実効性が高まり、取り組みの浸透が図れるのではないのでしょうか。

当社の省エネ対策のご紹介

当社では大きく3点の省エネ対策を実行しています。

①空調服支給

昨夏に製造部の社員さんに空調服を支給させて頂きました。この空調服の支給以降は、工場内のエアコンの温度設定をこれまでよりも2度上げさせて頂きました。温度設定変更による省エネ効果は大きく、昨夏の電力使用量は例年より約10%程度削減することができました。社員の皆さんには負担をかけているとは思いますが、電気料金が高騰する環境下の中、大きな成果につながったと考えています。

②工場遮熱・遮光対策

今秋、第二工場の屋根補修工事を実行する予定にしています。現在の第二工場は15年ほど前に塗布した遮熱塗料が剥がれ落ち、熱射の影響を直接受けているため工場内の温度上昇の大きな要因となっています。今回の屋根補修工事は、遮熱・遮光性能を持った屋根材を採用する予定にしております。工場内の温度の上昇を抑制することが可能と考えています。

屋根の補修工事によって、高温の状態から工場内温度を下げるよりも、エアコンの

消費電力を削減することもでき、試算値では年間で5000kWh超の電力使用量の削減を見込んでいます。

③コンプレッサのエアリーク対策

製造部では、不二越共和会の部会活動の一環としてコンプレッサのエアリーク箇所の把握とその対策を実行しています。コンプレッサは、電力消費の非常に大きい設備であり、小さな対策を積み重ねることで大きな成果につながっています。今回、これら3点の取り組みを含めた当社の省エネ対策について専門家の省エネ診断を受けたところ及第点を頂戴することができました。

専門家からは設備関連の更新と社員全体の省エネ意識を高めることで、更なる省エネ対策の充実を図ることができるとのコメントを頂戴しており、会社一丸となり取り組んでいければ良いと思います。今後もこのような取り組みを継続し、筋肉質な企業体質（収益性や安定性の高い経営）を目指していきたいと思っています。



空調服を着ながら作業している様子

石金精機における品質管理 ～多品種超少量生産を支える最後の工程～



品質管理課 松井さん



品質管理課 水上さん

品質管理課の業務

(水上さん) 航空機関連の製品検査を担当しています。品質管理課は、石金精機として製品に携わる最終工程です。そのため常に責任を感じながら仕事に取り組んでいます。経験を積み重ねることで効率化も実現できていると感じていますが、そんな時にこそ落とし穴があると考えています。

製造量が多くなると製造部の負担はもちろん、品質管理課内の負担も増えます。また、新規の場合は検査時の要求も多く、時間を要します。しかし、どんな状況であってもお客様が求める精度要求は変わりません。常に万全体制で検査を実施し、不良品を見逃さないようにしたいと考えています。

(松井さん) 私は製品検査結果の集計など、製品検査に係る管理業務を担当しています。月間の不良品件数や不良内容も管理しているため、製造状況と同じく日々変化する不良内容を把握し製造部の方々にフィードバックすることで、より良い製品づくりのため手助けをしたいと考えています。

より良いモノづくりのために

(松井さん) 品質管理に携わる中で近年は社内での不良品数が減ったと感じています。不良報告書の管理にも携わっており、報告書には不良品の発生状況や要因も記載されています。同じ不良内容が続くなど、気になる状況を発見した際には課内や製造部の皆さんにも共有することで、今よりも不良品数を減らしていきたいと思っています。

(水上さん) 品質管理課での仕事は責任も大きいですが、とてもやりがいを感じています。その一方で仕事内容の引継

ぎが難しく、担当者が不在の場合は検査業務が滞ってしまう点が課題だと考えています。顧客ごとに細かな条件が異なってくるため、それらを把握している担当者以外では検品が行えないという点を改善できればと思っています。

石金精機における品質管理課の役割

(水上さん) 品質検査は出荷前最後の工程です。お客様への納期や図面通りの製品を作るという約束を守り、信頼していただくためにミスをしてはいけな工程です。逆に言えば、品質管理がしっかりしていれば石金精機は納期を守り高品質な製品を製造してくれるという評価をいただけるということだと考えています。お客様との信頼関係をより強くするために、より一層早く、正確な検査を心がけていきます。

(松井さん) 品質管理課の業務の一つにクレーム内容の台帳登録や検査内容の証明があります。どちらも出荷した製品に対するマイナスの評価から生じる業務です。これらが多くなると、やはり出荷前の最後の工程を担当する課としての責任を感じます。同時にクレームも検査内容の証明も件数を減らすために、今自分ができることは何かを考えて日々の仕事に取り組んでいきたいと考えています。

品質第一



新体制で挑む！ 生産統括部の抱負

7月から生産本部（統括金尾本部長）が設置されました。また生産統括部部長に臼澤部長が就任され、新体制となりました。



生産統括部
臼澤部長

生産統括部長就任を受けて

これまでの生産管理課の業務内容に加えて、航空機事業、および技術課が責任範囲に加まりました。新しい分野についても勉強し、まだまだ成長していきたいと思っています。また、生産統括部部長という役職は社長・本部長に続く、部長という役職の責任の重さを感じると同時に、全社の課題にも目を向け、貢献できるよう取り組んでいかねばならないと、身の引き締まる思いです。

これまでは生産管理課として、納期に間に合わせるために製品の流れを止めないということを中心に自身の業務に当たっていました。今後は生産管理課としての視点だけでなく、全体を見渡す幅広い視点を持って取り組んでいきます。

新体制による連携の強化



機械要素技術展 M-Tech 出展報告

6月21日から23日に開催された機械要素技術展 M-Tech の出展報告を小林 B L リーダーにお伺いしました。

出展内容

機械要素技術展 M-Tech への出展は今回で5回目となります。今回も昨年に引き続き、富山県ブースの一角として出展させていただきました。展示した装置は現場で1年学び、その後、設計製作 B K の配属となった入社2年目の社員が約半年間かけて製作した装置です。

展示のポイントには新卒で入社した2年目の若手社員でも、設計からセットアップまで一人で装置を作れる技術を持つという点です。ブースを訪れた方々にその旨を説明すると、皆さん感心され当社が保有する技術やノウハウの一端をお伝えすることが出来たと感じています。

出展成果

今回は展示会全体の来場者数が3日間合計6万6895人（21日1万9131人、22日2万1247人、23日2万6517人）と昨年度より多いもののコロナ禍以前よりは少ない来場者数となりました。

しかし当社にとっては、部品加工の引き合いや、昨年度当社ブースを訪れた方が今回も足を運んでいただき1年越しの話が前進するという大きな成果が得られました。その他にも大手自動車メーカーの方にも興味を持っていただけという成果がありました。

その他にも、富山県ブースとしての新しい取り組みであるサンクスカードやコーディネート制度も効果的でした。自社の得意分野以外であっても、富山県ブース内の他企業を紹介することで富山県全体の産業を盛り上げていくという仕組みのおかげで競合他社という競い合う関係性だけでなく、同じ富山県の企業同士で協力し合うことができました。中には「富山県ブースの人は親切だから話を聞きにきた。」という方もいらつしやるほど、効果的な取り組みだったと感じました。

また、昨年度出展した際に出合ったメーカーからの引き合いがあり、今月受注となる予定です。1年かけての受注と大変時間を要しましたが、有意義な出展であったと思っています。是非、来年も参加したいと考えています。





ゴトの"こ"だわり

息子たちとの
コミュニケーション



製造2課
藤谷さん

仕事の活力
～家族の時間～

今年就職した長男と高校2年生の次男とのコミュニケーションです。以前から人並にはコミュニケーションをとっていましたが、コロナ禍の影響を受けて卒業式や入学式といった学校行事が減少したこと、また友人との交流が制限されてしまっている中で、少しでも楽しく明るい気持ちで日々を過ごしたいという思いから、意識してコミュニケーションを取るようになりました。

年齢を重ねるにつれて、心身ともに老けてきたと感じることが増えてきました。気持ちだけでも若くありたいという思いもあり、会話やLINEなど意識して交流の機会を増やしました。

長男は製造業に就職、次男は工業高校生ということで、3人とも「モノづくり」という共通のテーマがあります。その他にも3人ともアニメやゲームが好きなので話題には事欠きません。気になる作品があれば、すぐに視聴や購入ができる現代ならではのコミュニケーションかもしれません。

コミュニケーションで得られる視野の広さ

息子達との交流の中で、自分の考え方や見え方が過半数ではないことに気付かされます。仕事の中で、こうあるべきなのになぜしてないのかとイライラしてしまうこともありましたが、今はフィードバックして次回につなげていくとプラスに捉えられるようになりました。

自分とは異なる考えや見方を持つ息子たちとのコミュニケーションのおかげで広い視野を持って仕事に取り組むことができていくのかもしれない。また、帰宅して息子たちと会話をすると仕事から離れる休息の時間だと実感できます。いつかは家を出て自立する時がやってくると思いますが、その時までには日々楽しく過ごせるようにコミュニケーションをとっていきたいと思います。

次号では技術課の中野さんを推薦します。現在に至るまで様々な苦労があったと思います。そんな中、支えとなったこだわりを紹介してもらいたいです。

石金ニュース!

New Face紹介



生産管理課 前田課長

入社日:7月3日

インターンシップの報告

7月5日から7日の3日間、富山工業高校様から2名の生徒さんを迎えたインターンシップを行いました。お二人の感想文を一部抜粋し、紹介します。

会社の概要や作業内容だけではなく、社会に出ていく上で大切なこと、働くことの意義、やりがいについても学ぶことができ、とても充実した三日間を送ることができました。

印象に残っているのは優しく丁寧に教えてくださったことと働く方々の生の話を聞けたことです。

社員の方々は一人一人が自分の仕事に誇りを持っておられ、素敵だなと思いました。

工具のすり減り方や水温の差で誤差が生じてしまうことがあっても、その誤差を職人の方々が調整されるその技量にとっても驚き、私もそんな技量を身に付けられたらと感じました。

入社を決めた理由・今後の意気込み

前職では同じ製造業で設計、製造、営業と様々な職種と現場から管理職までを経験しました。管理職になると、書類の作成や確認、様々な会議など実務以外の時間が増え、現場に出る機会が減ってしまい、もどかしく思っていました。

そのような中で、選択定年制度が適用される年齢になり、新しいことにチャレンジしたいという気持ち、現場に携わりたいという思いから入社を決めました。

生産管理という職種は初めての挑戦となります。これまでの経験を活かして、役立てるように頑張ります。

